

フューチャーデザインと可燃性廃棄物管理

1220422 大久保智司

指導教員 小谷浩示

要旨

家庭における固形廃棄物管理は、経済発展、人口増加、消費パターンの変化に伴い、世界的な関心ごととなっている。特にネパールのような開発途上国や低所得国の大都市ではより深刻となっており、首都カトマンズ市の都市環境を健全で持続可能なものとして維持するためには、住民の廃棄物、またその管理に関する思考や行動をどのように変化させることができるかを理解することが重要となる。本研究は、固形廃棄物の中でも特に可燃性廃棄物に焦点を当て、「フューチャーデザインという一連の仕組みの導入により、カトマンズ市民はより持続可能な可燃性廃棄物管理をする様になる」を仮説として設定し、検証する。(1)ベースライン、(2)フューチャーデザイングループの2つのトリートメントの下、オンラインフィールド実験を実施し、統計分析の結果、ベースラインに比して、フューチャーデザイングループの方が1日1人当たりの可燃性廃棄物の排出量が減少することがわかった。本研究の結果は、家庭における可燃性廃棄物管理において、フューチャーデザインを導入された家庭はベースラインの家庭に比して、1日1人当たりの可燃性廃棄物排出量が減少することを示している。